

●ニューサークル便り

六甲全山縦走トレーニング

～ヒヨコの縦走大会に向けて～

布引支部 細川 晴弘

私が六甲全山縦走を始めたのは、5年前、会社の友人の転勤の壮行会で、香港に勤務していた人が職場のチームとして香港トレール100Kmに出場していたという話から加藤文太郎の六甲縦走の話になり、神戸市主催の六甲縦走大会に挑戦しようということになったのが切っ掛けです。平成27年に初挑戦、塩尾寺辺りから膝痛に悩まされながらも何とか完踏しました。その翌年は、別の友人から13時間以内で歩かないと駄目だと言われて発奮、何とか12時間50分で完踏しました。一年飛びましたが、60歳になった昨年から何歳まで完踏できるか挑戦してみたいと思い、今後毎年参加する積りです。



1月27日・3分割縦走第1回コースに参加

そして今年からは、神戸ヒヨコ登山会の六甲全山縦走大会にも挑戦をすることにしました。以前からその存在は知っていましたが、神戸市の大会に比べ少し距離が長そうなのにも拘わらず各チェックポイントの締切時間が早いようなので、今まで参加を躊躇していました。ヒヨコ登山会に入会したからには、こちらでも毎年体力の続く限り挑戦したいと思っています。

まずは、トレーニング第一弾として、塩屋スタートや禅昌寺尾根は未経験であったことも

あり、1月27日の3分割縦走その1に参加の方々と一緒に歩かせてもらうことにしました。子供のころから高取山には登っていましたが、禅昌寺尾根のような道があるとは知らず、少し感動ものでした。最初に縦走を共にした友人二人にもこの道を伝えたいと思い、後日塩屋から禅昌寺尾根（+柵尾山への加藤文太郎の道）を歩きました。



須磨アルプスに行くヒヨコ縦走隊

禅昌寺尾根については二人とも「これはきつい、何故この道を縦走路に選んでいるの?」と聞かれましたが、私が答えられる筈もありません。何故なのでしょう。



高取山・安井茶屋前の広場

つぎに、3分割縦走その2の2月24日は、鶴越駅から菊水山～鍋蓋山を越え新神戸駅までのコースでしたが、私は本番を意識してもう少し長い距離を練習したいと思い、塩屋からスタートして半縦することにしました。3分割縦走の方々は、鶴越駅8時スタートだったので、

午前 5 時半頃に塩屋をスタートすれば、あわよくば途中で追い付けるかと思い、始発電車で行くことにしました。

始発で行くとすると、4:56 阪神三宮発に乗り高速神戸で乗換え、5:17 発の JR 神戸駅始発で 5:30 に JR 塩屋駅到着の積りでしたが、寝過ごしてしまいました。ギリギリの時間になり、三ノ宮駅までは徒歩 10 分弱、神戸駅までは 25 分と考えながら、約 2Km を歩いて神戸駅に向かうことにしました。首尾よく 5:17 発に乗れ、35 分には塩屋駅をスタートすることが出来ました。今の時期、日の出は 6 時半頃なので、この時間は未だ真っ暗。慣れない道を不安の中ライトを点けて登ることになります。約 35 分後、旗振山頂に到着。旗振山を過ぎてしばらくすると、ようやく辺りが白み始めました。

高倉台、須磨アルプスを越え、東山までは順調に進んだのですが、禅昌寺に向けしばらくは緩やかな下りということで気が緩んだのか、その先の道のりと時間のことを考えながら歩いていて痛恨のミスをしてしまいました。分岐は禅昌寺への道と板宿に向かう道との一か所だけとっていたのですが、どこで間違ったのか階段の整備された道に出ました。その時点で間違いに気づいたものの、戻る気もせず進み、横尾団地に出てしまいました。仕方なく団地の外周を歩き横尾中学を通過して、結局神戸市の縦走路に沿って妙法寺の交差点に出ました。そのまま市の縦走路を歩けば、タイムロスはず減できると思ったのですが、どうしても禅昌寺尾根を歩きたいと思い、車道を 15 分ほどかけて下り禅昌寺の信号まで歩きました。



この尾根に取付きたい
ために！・・・

(IN 画像より掲載)

ここまでで東山から 55 分ほどかかり、約 30 分のタイムロス。

気を取り直して登りにかかるも、やはり禅昌寺尾根は傾斜がきつい。神戸市の縦走路よりも多く下った分多く登ることになります。岩場の緊張感もあります。他に歩いている人もおらず、一人では来たくない道です。禅昌寺の信号から約 35 分後に荒熊神社下を通過、安井茶屋横の広場で行動食をとって、鶴越駅に着いたのが、9 時 45 分。タイムロスをお察ししても塩屋から約 4 時間掛かっており、本番での締切時間が心配な結果となりました。

鶴越駅から鍋蓋山までは、私の足では少なくとも 2 時間はかかるので、3 分割縦走の皆さんに追い付くことは無理かと思いつつ、菊水山のきつい登りを汗が帽子の鍔から滴り落ちるのに驚きながら登り切り、菊水山頂を経て鍋蓋山に向かいます。先行する皆さんは市ヶ原辺りで昼食をとるのだろうか和一縷の望みを繋ぎつつの鍋蓋山頂に向かいました。山頂にたどり着いた時、吉野会長の顔がまず目に飛び込んできました。やった！追い付いた！皆さんが昼食休憩を取っていたので追い付くことが出来ました。その後は、見晴らし台のゴールまで、そして雄滝茶屋と三宮での飲み会にもご一緒させていただきました。後で聞いたところ、当初、洞川湖の梅林で昼食の予定だったとのことで、もしそうなっていただければ遭遇することが出来ていなかったかも知れませんでした。

3 月 3 日の定時総会で、六甲全山縦走大会を 50 回完踏した方がおられるとお聞きしました。これから 50 回となると、私の場合 110 歳までかかることになりとても無理なので、ヒヨコの大会を春・夏・秋・冬と年 4 回ぐらいやってもらえないでしょうか。

先人が苦勞して歩んだ六甲登山の歴史が刻まれた道を、私も歩き続けたいと思います。